ご覧ください

テレビ埼玉
●所沢リポート
7月20日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映
『環境フォーラム』
シティケーブルネット
●広報ところざわ テレビ情報館
7月19日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

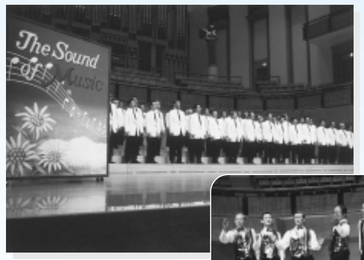
●譲ります ▽噴霧器（肩掛用）▽自転車用子ども椅子（前後取付用）▽足踏みミシン▽座いす（ひじ掛なし）▽エアロバイク▽ホルン▽折りたたみベッド▽自転車（変速3段式）▽ホイール（BMW・525用）▽オーブンレンジ台（バイザー付）

●求めます ▽2段ベッド▽シューズボックス▽ファクシミリ▽ハイロースウィングチェア▽子ども用ハイチェア▽墨すり器▽ベビーゲート▽パソコン▽バイオリン

受付方法 電話による先着順で紹介します。

休館日 月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館（☎944－0008）



▲緩急自在の素晴しい歌声。所沢メンネルコール演奏会。
6月10日㈰／ミューズ・アークホール

▲市内外の6校が夢の舞台で熱演を繰り広げました。高校演劇祭2001。（写真は所沢北高校演劇部）
6月19日㈫・20日㈬／ミューズ・マーキーホール

みんなの広場

▲「見合って、見合って！」小学生力士たちの気迫に思わず力が入りました。わんぱく相撲大会所沢場所。
5月27日㈰／市民体育館

▲ゴールイン！各種競技を通じて、健康の維持増進と親睦を図りました。障害児者・母子スポーツ大会。
6月10日㈰／市民体育館

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「奇妙な出来事」▶世の中には理屈では説明できない出来事が多々起こるようで…▶偶然に偶然が重なったのか、科学では解明できない力が作用したのか▶夏到来にふさわしい（？）、皆さんの不思議な体験やミステリアスな現象等、お寄せください▶締め切りは7月16日㈪必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

誰でもエッセイ

テーマ〝いやされる時〟

会社をリタイアして…

松郷・島村紀一郎

関東地方も梅雨に入り、雨のためいつも子どもたちでにぎやかな公園も静かです。我が家は公園の隣にあり、雨に濡れた新緑の木々を眺めながら、ドボルザークの曲を聴いています。

40数年間の会社勤めで、朝早くから夜遅くまで、日祭日も出社する典型的な会社人間であった私のささやかな夢の一つが「ゆっくりと音楽を楽しみたい」。それがリタイア後、やっと実現しました。コンサートに出かけることもありますが、自宅で寝そべって聴くクラシックも良いものです。

このほかに、往復5kmのウォーキング、週1回の卓球練習、年に数回の旅行、美術館巡りなど。私流に解釈すれば、達成した時に満足・充実感を味わえる行動、ゆったりとした時間を持ち、豊かな気分に浸れる時などが「いやされる時」だと思います。

マンスリー・リセット

久米・立山 礼子

ショートヘアにしてから月に一度、美容室へ行くようになった。カリスマではないけれど、顔なじみの美容師さんとの鏡越しの会話は心が和む。

嫌なことはシャンプーの泡とともに流れ、ストレスはばさみで切り落とされる。

髪も心もリセット完了！

美容室は私のヒーリングスポットである。

初めてのメッセージ

緑町・五十嵐尚美

一昨年、娘が中断していた留学を継続する際、3か月間、3歳と5か月の二人の孫を預かることになりました。

宝物託された重圧に、これでよいのかと悩みながらの毎日でした。ミルクを作るのにも老眼鏡の必要な私にとっては、眠る時間もないほどの大変な仕事でした。

上の子とはおしゃべりできますが、赤ちゃんとは一方通行。若い時とは違って心身共にくたくたな私に、あるとき、答えがありました。だって話しかけると、いつもの笑顔のほかに肩をトントンとたいてくれたのです。

「あれ？何か伝えている」と確実にわかったメッセージでした。うれしくて今までの疲れが一瞬に吹き飛んでしまいました。

今でもあの時の感動を思い出すと心がいやされます。

お墓参りと私

美原町・荻原 誉朗

我が家は、群馬県に20坪ほどの墓地を持っており、年に4回ほどお参りに行きます。墓地内の草むしりや掃除をしてお参りを終えると毎回、日常生活でのストレスがきれいさっぱりなくなり、すがすがしい気分になります。

子どもたちころは、墓参りや墓掃除が面倒に感じて大嫌いでした。しかし、20代後半になった今では、墓参りをすると心がいやされるようになりました。

なぜ、気持ちが変わったのだろうと、ふと不思議に考えることがありますが、これからも欠かさずに、墓地へ足と心を運ばせたいと思います。

心のオアシス

並木・横須賀みどり

保育士の仕事も6年目に入りました。担任の時には気づきませんでしたが、全クラスとの関わりようになり、朝、子どもたちに「今日はどのクラス？」と聞かれ、「今日はチューリップ組よ」と答えると喜んだり、違うクラスの子どもは残念がったりしてくれます。

そのとき、自分がいやされていることがわかります。

心がふんわりと軽くなってきて「よし、今日もがんばろう」。そんな気持ちにさせてくれます。

子どもたちに出会えたことを幸せに思いながら、仕事を続けています。

ゆうたあん

並木・斎藤志津子

我が家の殿とやりあって散歩に出る。いつもの景色が百倍違う。つゆ草が小さな宝石のように咲いている。そそとした白い花。私は好きだ。

名前がかわいそう。毒ダミなんて。垣根から紫のだいこんの花。顔を出して一生懸命咲いている。甘い風がほほをなでていく。木の葉がゆすり合うようにキラキラ揺れて水たまりにうつる。

自然と対話しているうちに「まあ、いいか」という気分になってきた。

鬼の面をはずし、ドアのノブにそっと手をかける。

ほっとする心の文字

下安松・川北 京

今やパソコンやワープロの時代になった。それなのに書を習う人が増えてきた。なぜだろう？

日ごろ、激務に追われている保育園の園長先生が来られる。黙々と書き続ける。書き終って「ほっとしました」と言われ、晴れ晴れとした顔で帰られる。

「白い紙に黒い墨がしみ込んで字になり始めますね。ほっとして心がなごみ、親とのけんかも忘れ平常心が戻るんです」と女子高校生が言ったことがある。年賀状の中に毛筆を見つけるとほっとしてうれしくなるという友人もいる。

集中して筆を持つとき、文字の中に伝達機能だけでない、心をいやす何かを見出しているのかもしれない。そんな思いをこのごろ抱いている。

愛猫とともに

青葉台・寺島 正朝

たかが猫、されど猫。この小さな動物には魂があり、私に少なからず影響を与えてきた。猫に関する俳句や短歌を作ったり、猫の切手を収集するようになったり…。

私は20年ほど猫と関わりを持ってきた。現在はアメリカンショートヘアの雌猫〝メリー〟と家族の一員のように暮らしている。

外出先から帰ると玄関に座っていて、ニャーンと一声鳴いて足下にじゃれてくる。そんなとき心が和み、ストレスが解消される。

最近、動物虐待の痛ましい記事を見かけるが、動物と優しく接して、すさんだ心をいやしてほしいと願う。

〝かたわらに猫も添い寝の日向ぼこ〟

ひとり言

北岩岡・大野喜久子

デパートの特設売場から僕がこの家に来たのは3年前。

ふかふかの毛並みとドテッとした体型、とろんとした気の弱そうな目が気に入られた理由である。何よりも食事やお散歩の煩わしさが無いから、多忙な一家には好都合とも言える。

時代とともに多様化する人間社会は、端で見るより楽ではないらしく、帰宅するなり「疲れたー」が家族の口癖。いつもソファーにいる僕の傍らに座ると皆ほっとするみたい。

主人にはときどき指で弾かれたりもするけれど、ま、これも愛情表現の一つ。「ゆっくりくつろいで、また明日も頑張って！」と密かにエールを送る。ちなみに僕は、ビレニアン・マウンテンドッグのぬいぐるみである。

次回のテーマは「奇妙な出来事」です

はつらつ ところ 野老っ子

森本いく子さん
（久米在住）

日本語の美しさを 五行の歌に込めて

既成の制約にとらわれず、自由な発想を用いて、五行で書く新形式のうた、「五行歌」。森本さんは、この五行歌の会・所沢歌会の代表を務めています。

「もともと古典文学が好きで、大学時代は国文学を専攻していました。所沢に引っ越して来て、公民館での古典講座に参加していたとき、市内在住の歌人・草壁焔太先生が講義されていて、先生を通じて五行歌を知りました。先生は五行歌の創始者で、当初五行歌の本部が所沢であったことから、所沢はいわば〝五行歌発祥の地〟とも呼ばれているんです。」

その草壁先生が7年前に月刊誌「五行歌」を創刊。これを機に、先生の勧めもあって、お付き合い程度の軽い気持ちで創作を開始します。そして、6年前に発足した所沢歌会に参加し、歌会の運営面においても代表を務めるに至ります。さて、そんな森本さんにとって、五行歌の魅力とは？

「心に留めたことやパッと思いついたことを自分の呼吸で自由に表現できることでしょうか。平易な表現で読みやすく、何よりも一人ひとりの個性を大切にする五行歌の世界が、私にはぴったりきました。」

そんな森本さんの歌作りには、2つの思いが託されています。1つは、美しい日本語で〝やまとうた〟のような季節感漂う歌を作ること。もう1つは…。

「広島の出身なので、被爆地ヒロシマにまつわる思いをうたい込んでいければと思います。」

にぎわう手を離れ／川面彩る／
とうろうは／ゆらり／闇に散る

月1回の歌会には、常時20人弱の会員が出席しています。毎回、各会員の作品を読み、互いに寸評し合うことで、友好を深め、新たな創作への刺激を受け渡す場となっています。

歌会のようす

「五行歌は誰でも書けます。歌会は、歌について語り合うことで心がふれあう、とても楽しい時間です。ぜひ多くの方に知ってほしいし、愛好者の輪を広げていきたいですね。」

ご興味のある方は、森本さん（☎925-7049）まで。

Tokorozawa ものしり ウォーキング ⑮ 有楽町・天王様のお祭り

「有楽町」の町名は大正4年の町名改正のときに初めて使われました。それまでは、浦町あるいは裏町でした。大通りに面した町場が、かつての宿場の表側であったのに対し裏側に位置することからきています。東京の有楽町をあてたのでしょう。

有楽町・八雲神社

有楽町には八雲神社があります。ちょうど薬王寺の北側、国道463号線から見えるトタン葺きの社殿がそれです。毎年7月の第3土・日曜日になると、幟が立てられ、屋台が組まれてお囃子が鳴り響き、境内を出た細い道には所狭しと露店が並び多くの人でにぎわいます。土曜日が宵宮で日曜日に神輿が町内を練り歩きます。天王様のお祭りで、かつては7月14日と15日に祭り日が決められていました。氏子の人たちにサラリーマンが多くなり、昭和61年以降改められました。

天王様は、疫病除けの神様として知られる牛頭天王をお祭りする行事として、江戸時代から各地で行われてきました。本格的な夏を前に疫病にかからないようにと願ったものです。有楽町の天王様は、神輿に向って水をかける慣わしがありますが、これは疫病を鎮めるためだといわれています。稲作地帯では稲が病虫害から守られるようにという意味もあったようです。

牛頭天王はインドの神様で、江戸時代までは農村に多く祭られていました。疫病除けといいましたが正確には疫病の神様です。古来日本では災いや祟りがあると、それをもたらす神様を祭ることで災いや祟りの厄を払おうと考えました。これを御霊信仰といいます。しかし、明治政府は廃仏毀釈や神仏分離等の宗教政策を進める中で、牛頭天王を認めませんでした。そこで各地の牛頭天王を祭った社は、その化身とされるスサノヲノミコトを祭るように変えられていったのです。有楽町の八雲神社も現在の祭神はスサノヲノミコトで、かつては牛頭天王でした。

7月は各地で天王様の祭礼が行われます。林の天王様は、神輿の担ぎ手がそろって白い衣装を着る習慣があります。北秋津の天王様は有名な火渡り式が行われます。こうした天王様も今ではかつての意味合いは薄れ、地域の夏祭りとして定着しています。

有楽町の天王様